

ランチのデザートを食べる生徒たち。「作業」の授業で焼いた皿が使われている



# 高田特別支援学校生徒による皿 ランチデザートに使用

宇喜世

## 注文受け授業で製作

### 高等部 来店し味わう

上越市仲町の宇喜世で、県立高田特別支援学校の生徒が製作した皿がランチデザートに使われている。製作したのは同校高等部「陶工班」の1年生から3年生まで15人。卒業後の就業を見据えた授業「作業」の中で製作した。宇喜世にデザートを提供している和菓子処あん味堂が、アール・フリユット作品の販売などを行う「うらなみ」の店(同市西城町)で生徒たちの皿を見て、製作を

依頼した。和菓子に合うような色合いや形状の指をかけた製作。濃い褐色の平皿で、「たかとう」の立体印が押され



店内に皿の試作品や製作過程の紹介コーナーが設置されている

ている。デザインの注文に合わせて作るのは、今回が初めてで、30個の注文に対し品質を確認するために100枚以上を焼いたという。

納入された皿は11月中旬から使われ、ランチ客から好評。店内に紹介コーナーも設けている。3日には生徒たちが同店を訪れ、ランチメニューを味わった。「作業」成果の売り上げを使って食事や買物を楽しむ行事「作業祭」の一環で、食後には自分たちが焼いた器に載せて供されたデザート「あんシヨコ」に舌を打った。中村天智(3)年は「自分たちで作った皿が、お客さまに使ってもらえるうれしい。きんぎょさんのお皿を作り、お店納めきた」と話した。